

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

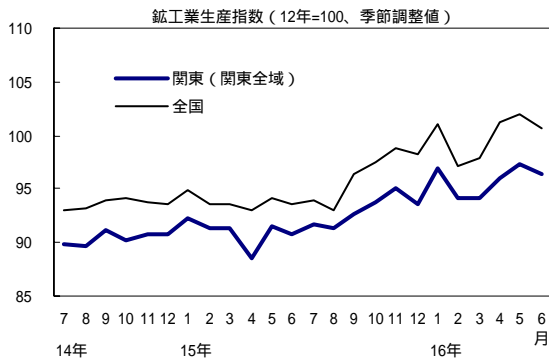
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 5 月)	今回 (平成 16 年 8 月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
住宅建設	増加	減少	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は増加している。(関東全域)

一般機械は、半導体製造装置が国内半導体メーカーのデジタル家電用に加え、台湾、韓国向けの輸出用も好調なことから、引き続き高水準で推移しており、4 四半期連続の増加となった。化学は、好調な中国向け輸出を背景として、堅調な生産が続いており、おおむね横ばいとなっている。輸送機械は、北米向けの普通乗用車が好調なことに加え、海外での現地生産に向けた輸出用の自動車部品も増加したことから、高水準で推移している。情報通信機械は、携帯電話が新機種投入に向けた切り替え時期となったため、6 月にはプラスに転じているものの、四半期では減少となった。電気機械は、引き続き半導体・IC 測定器が堅調に推移し、アルカリ蓄電池も好調であったことから、増加に転じた。



(備考) 平成 16 年 6 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	13.8	6.2	3.1	4.8	4.3
化学	13.7	3.5	0.2	0.1	1.1
輸送機械	11.3	1.8	4.5	6.2	15.7
情報通信機械	8.6	0.8	9.5	7.3	11.3
電気機械	7.9	2.1	5.9	7.8	2.8
鉱工業	100.0	1.0	1.6	2.3	3.0

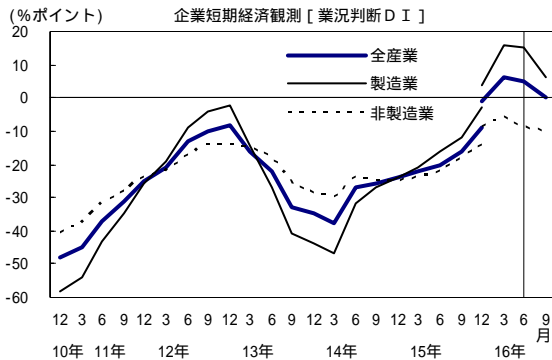
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 4~6 月期は速報値。

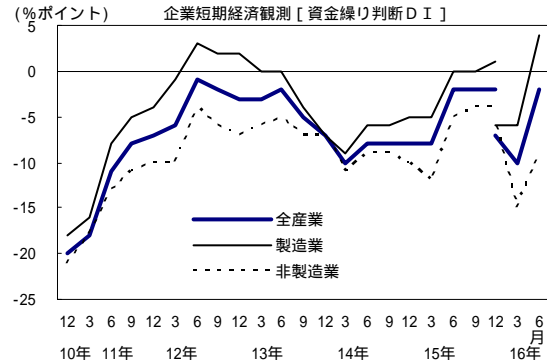
3. 4~6 月期の化学の生産、出荷については、4 月、5 月  
確報値の平均より算出。在庫については、5 月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

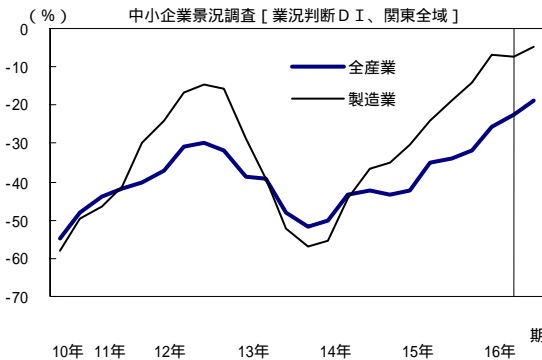
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「下請の工事業者の話では、受注が横ばいから微増になってきたものの、価格競争が激しく、引き下げ要求の圧力が強い」ため、忙しい割にはトータルでの売上が上がらないとのことである(不動産業)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

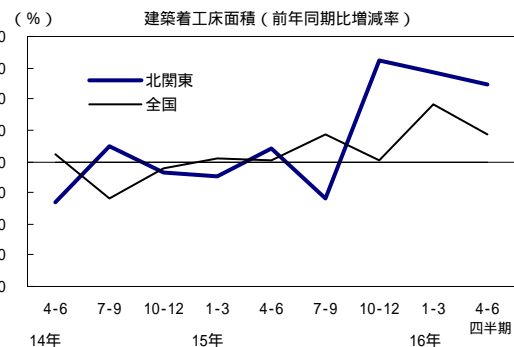
企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位: %)

	15年度実績	16年度計画
全産業	4.9( 2.3)	25.8(10.6)
製造業	9.0( 5.9)	33.6( 9.8)
非製造業	1.7( 4.9)	11.8(12.4)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

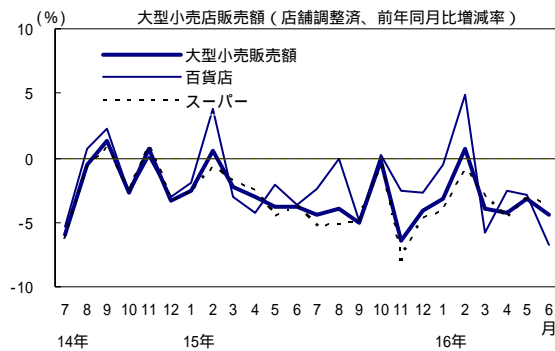
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、紳士服では持ち直しの動きがみられたものの、主力の婦人服や身の回り品が低調で、前年を下回った。5月は、週末に雨が多いなどの天候不順から、引き続き衣料品を中心に振るわず、全体としても前年を下回った。6月は、クリアランスセールが7月にずれたことや、日曜日が1日少ないことが影響し、衣料品や身の回り品が大幅減となり、全体としては4か月連続で前年を下回った。スーパーは、消費税総額表示の影響がみられ、5月以降は主力の飲食料品に一部持ち直しの動きがあったものの、期間を通じて衣料品が低調に推移し、全体では前年を下回った。

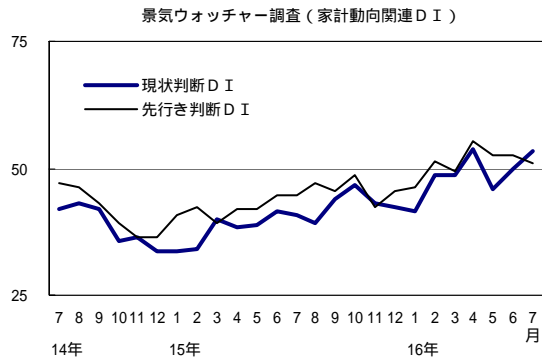
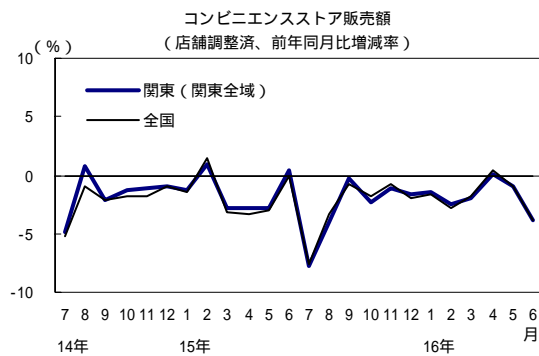
景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「この夏の猛暑で、ビール、飲料、冷や麦、そうめん等の動きが良いが、その他の生鮮品については、売上が厳しい(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	4.4	3.7	1.9	3.9
百貨店	2.5	1.8	1.0	4.0
スーパー	5.2	4.5	2.8	3.8
コンビニ	4.2	1.7	1.9	1.6
景気ウォッチャー	41.3	44.2	46.3	49.9

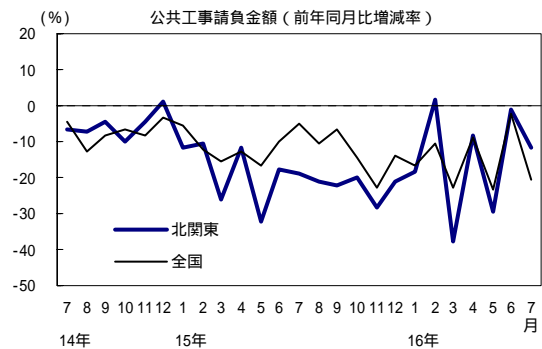
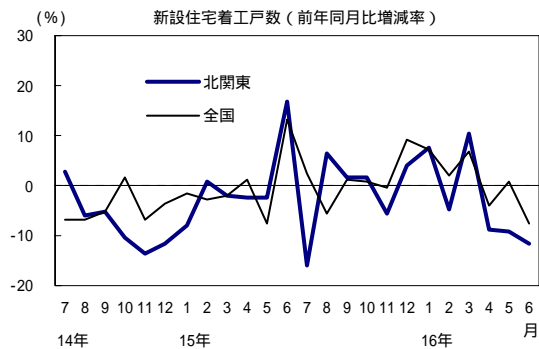
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。16年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。  
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

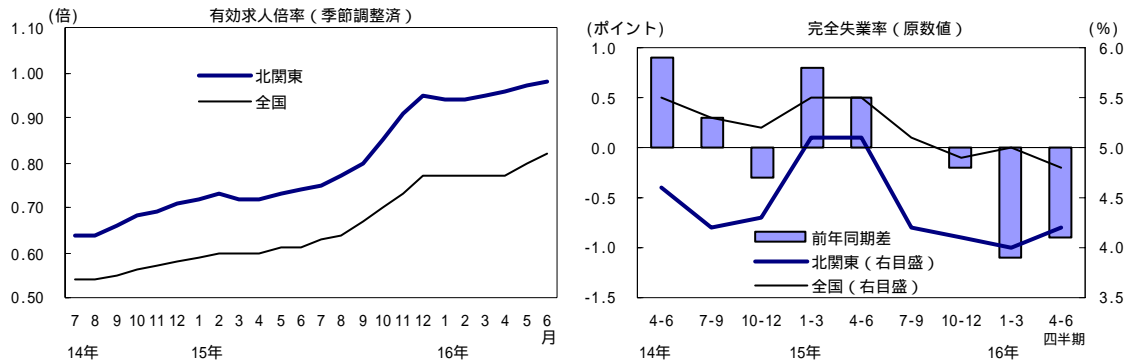


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

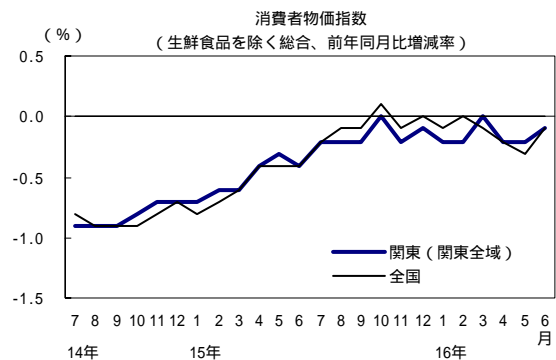
「例年この時期に求人のある主に卸、販売、サービス業などの企業に問い合わせたところ、繁忙の場合は派遣やパートで対応し、正社員採用には慎重なスタンスである企業が多い(学校[短期大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	170	172	176	156	37
(前年比)	30.9	27.7	23.8	38.6	43.9
負債総額	818	684	1,443	1,581	121
(前年比)	22.3	51.2	86.3	27.4	75.5



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・親会社の産業機械や工作機械の生産が前期比 130%となり、初めて生産増に対する協力依頼が来ている。資材の高騰があり、どう利益につなげるかが問題である(金属製品製造業)。

<先行き>

・金利が上がり始めている中で、土地価格が下げ止まったと判断した客が購入に積極的になる感覚はあるものの、反応が出るのは最低半年後と見込んでいる(住宅販売会社)。

景気ウォッチャー調査 (合計DI)

